

Ⅱ 特別シリーズⅡ

科学技術
振興機構 『さくらサイエンスプラン』友情と感激

第101回

愛媛大学の活動報告



榊原正幸
(愛媛大学大学院
理工学研究科教授・
社会共創学部副学部長)

インドネシアの大学生に「持続可能な開発のための人材育成」テーマで研修

①プログラムの概要

国立ゴロンタロ州大学は2004年6月に総合大学として創設された新しい大学です。大学が立地するゴロンタロ州は、スラウエシ島の北方のミナハサ半島の中央部に位置し、面積12,215km²、人口887,000人の小規模な州ですが、森林資源、海洋資源の極めて豊かな研究ポテンシャルの高い地域です。愛媛大学は、設立間もない国立ゴロンタロ州大学の支援をインドネシア戦略の一つの方針として支援し、2007年から大学間で交流協定を結んでいます。

本プログラムで、国立ゴロンタロ州大学から大学生9名、教員1名の計10名を招へいしました。学生の内訳は、5名が理学部、3名が公衆衛生・スポーツ学部そして1名が法学部に所属している学生です。本学の社会共創学部では、地域社会の問題を解決し、持続可能な地域社会を構築するためのトランスデザインナリ人材を育成するための、地域のステークホルダーと協働で、様々な取り組みを展開しています。特に、観光立国を目指す日本においては、世界ジオパークへの取り組みの取り組めとの人材育成は極めて重要で、本交流では、愛媛県で日本ジオパークに認定さ



2つの特別講義を受ける

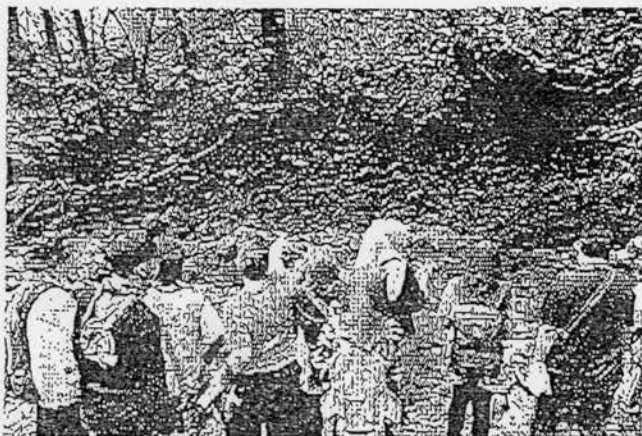
プログラム	
1日目	松山空港到着 愛媛大学にてオリエンテーション
2日目	特別講義 「持続可能な開発と科学技術イノベーション」 「ジオパークとは何か？」
3日目	愛媛県西予市を訪問し、四国西予ジオパークのジオサイトの視察
4日目	四国西予ジオパークのジオサイトの視察
5日目	四国西予ジオパークのジオサイトの視察
6日目	愛媛大学の大学院生及び学部生との交流 松山市内の観光施設で活用されている科学技術イノベーションの視察及び課題探索
7日目	松山市内の観光施設で活用されている科学技術イノベーションの視察及び課題探索
8日目	愛媛大学ミュージアムの見学 本事業の成果発表会の準備
9日目	成果発表会、修了式及び送別会
10日目	松山空港にてお別れ

れている「四国西予ジオパーク」を訪問すると同時に、それらの観光地で実用化されている多様な科学技術イノベーションを見出し、それらの環境保全、持続可能な開発等における役割を学び、その重要性を理解することをプログラムに盛り込みました。

学生は3つのグループに分かれて、インドネシアにおける持続可能な社会共創に関連したサブテーマに関して、文献およびフィールド調査を行いました。

②実施プログラム
主なプログラムは、①特別講義、②四国西予ジオパークの視察、③松山市の観光施設の視察と④成果発表です。特別講義を2つ開講し、1つは、社会共創学部の渡邊敬逸准教授より、ジオパークの概要の説明と、日本および世界のジオパークの事例紹介を通じて、その具体的なあり方を学びました。また、榊原より「持続可能な発展」について学び、国立ゴロンタロ州大学で取り組むべき課題についてディスカッションを行いました。

四国西予ジオパークの視察は、2泊3日で西予市を訪問し、様々なサイトを視察しました。古い町並みの保存や、溪谷やカルストに



西予市桂川溪谷でジオガイドから説明を受ける



西予市長を表敬訪問



成果発表会

成果発表会・修了式での集合写真



西予市のごみ分別について学ぶ

おける地質学的、植物学的、歴史学的な要素がジオサイトにいかに活かされているか学びました。屋形船に乗り、観光とジオサイトの密接な関係も体験しました。また、特別に西予市のごみ処理施設や、衛生センターも訪問し、日本における衛生環境について学習する機会を得ました。

松山市内の観光施設では、科学技術の活用を視察しました。成果発表では、滞在中に体験し学んだこととインドネシアの実情とを比較し得たものを、グループごとに発表しました。

③プログラムの成果

国際社会が持続的に発展するためには、当該地域の自然環境、社会文化、経済の持続的発展と融和した未来可能性を拓けるトランスディシプリナリー人材の育成が必要です。今回、本プログラムに参加した国立ゴロンタロ大学生は、昨年度愛媛大学生が海外フイー

④今後の展望

日本の学生にも、インドネシアの学生にも言えることですが、実際に海外に飛び出し、現地の生活を身近にしながら問題を発見し、課題を提起し、解決策を模索する機会を与えられることは、経済面やそれ

らも限りがあす。特に発展途上のインドネシアの学生らは渡航費も滞在費も自力で工面するのは困難ですが、サイエンスプラン事業により若く、希望を持った学生を招聘することができ、今後の交流につながる成果を得ることが出来たことは大変大きなことです。

全員が、学生または研究者として再び来日したいとの希望を持って帰国の途につきました。今後も東南アジアの大学や学生と交流を深め、学生たちがお互いに海外に目を開くための大事な一歩が与えられるよう、さらさらサイエンスプランがより充実したプログラムとなるよう願います。

ルド実習でゴロンタロを訪れた際、一緒に現地でフイーールドワークを行った経験から、愛媛大学が有する持続可能な社会構築のための知識・視点を学びたいという意欲を持った学生ばかりでした。初めての日本ではありましたが、顔なじみの教員や学生らと共に実施できたので、課題に集中でき、大変有意義でした。特別講義と西予市訪問によって、ジオパークについて学び、体験ができ、学生たちの地元であるゴロンタロ州で取り組むべき課題について、活発な議論を持つことが出来ました。今年の国立ゴロンタロ州大学でのフイーールド実習に参加する愛媛大学生も友好を深めることができ、大変な励みとなりました。